

紀建第1397号

平成20年10月14日

国土交通省道路局長 様

紀北町長

奥山 始郎



今後の道路行政についての意見・提案について（回答）

平成20年9月19日付け国道企第37号で依頼のありました
このことについては、別紙のとおりです。

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

三重県 紀北町

都市と地方の地域間格差が拡大している状況を大いに認識し、地域間格差を解消させる観点から、道路整備の遅れた地方の活性化や自立に必要な、高速道路ネットワークの整備、安全・安心な生活を確保する地方の道路整備を優先させるべきである。

①地方における経済の活性化と災害時の復旧・支援、緊急医療が重要課題であることから、近畿自動車道・紀勢線の早期完成を要望する。

②地域間交流連携の強化、災害時の緊急輸送路の確保を図るため、一般国道422号における交通不能区間の解消を要望する。

②－１地域の現状と抱える課題

三重県 紀北町

○現状

当町の道路網は、国道42号、国道260号、国道422号を軸に県道10路線を基幹として、町の中心部と海岸部や山間部及び隣接市町を結び、町道は集落内の生活に密着した道路を形成している。

国管理の幹線道路は国道42号の一路線のみであり、県管理の国道422号や県道は幅員の狭い箇所や急カーブが連続する箇所が多く、道路災害防除施設の整備も遅れている。また、隣接する大台町に通じる 国道422号は通行不能区間が存在する。

町道に於いては、道路施設の老朽化が進んでいる。

○課題

公共交通機関の少ない当町においては、移動手段の殆どを自動車交通に頼っている現状であり、道路整備の遅れは地域住民の日常生活や地場産業の振興、観光振興に大きく影響を与えていることから、高規格自動車道路の早期整備が重要な課題となっている。

又、県管理の幹線道路に於いても、道路整備が通勤・通学をはじめ住民生活の利便性向上と、災害時の避難・救急医療・救援活動を支えることから重要な課題となっている。

- ① 近畿自動車道・紀勢線の早期完成
- ② 近畿自動車道・紀勢線及び国道260号の整備後における、当町の集客・交流における地域づくり施策の拡充
- ③ 町道の运营管理(橋梁等施設の老朽化)
- ④ 国道422号の通行不能区間の解消

②－2地域の目指すべき将来像

三重県 紀北町

【将来像】

豊かな自然と共生し、熊野古道に代表される歴史や文化を伝承・保護するなど自然や歴史、文化を大切にするまちづくりを目指します。さらに、地域資源を活用した観光交流により賑わいのあるまちづくりを目指します。

【将来指標】

歴史や若者の定住促進やU・J・Iターン者への取り組みを継続的に行い、定住人口の減少緩和・維持に努めるとともに、交流時代の新たな人口指標の尺度として重要視されている「交流人口」の増加に向け、魅力あるまちづくりを進めて行く。

※具体的指標 定住人口(平成28年度) 18,000人 → 交流人口(平成28年度) 23,000人

【基本目標】

1. 「豊かな自然と共生し、快適で安心して暮らせるまちづくり」
2. 「互いに支え合い、健康でいきいきと暮らせるまちづくり」
3. 「地域の資源を生かし、活力と魅力あふれるまちづくり」
4. 「豊かな心を育み、人と文化が輝くまちづくり」

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ④

③道路施策の重点事項(代表事例、期待する効果や評価等)

三重県 紀北町

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価など	○その他
・地域活力の向上	高速道路ネットワークの形成	地方経済の活性化、大災害時の孤立不安の解消及び緊急医療輸送動	
		道路の確保	
・大規模な地震、火災に強い国土づくり等	一般国道42号における、地震による	大地震災害における津波被害の拡大防止	
	津波を想定した、海岸沿いの道路施設	及び孤立不安の解消	
	の防災強化		
・水害等の災害に強い国土づくり等	一般国道42号における連続雨量による	通勤・通学等の住民生活における利便性	
	交通規制の解除	の向上及び緊急医療時の不安解消	